

令和4年度 協働のまちづくり活動支援事業公開プレゼンテーション

<事業内容・質疑応答>

1. えべつあそび場創造プロジェクト



【事業名】 イベント会場に子供たちのあそび場を

◆ 事業内容

これまでのえべつあそび場創造プロジェクトの事業では、子ども向けイベント「あそびの会」において、大人も楽しめるような工夫をしてきたが、今年度の取り組みは、大人向けイベントに子どもが楽しめる場を設けるという、逆転の発想で展開する。

団体名が少し長いので、「あそプロ」と覚えて欲しい。あそプロのこれまでの活動を簡単に説明する。

【地域に住む子どもたちにあそび場を提供】

あそプロに登録している各あそび場施設にて、毎月1回日曜日に地域の子どもたちを対象としたあそびの会を開催している。このあそびの会は、あそプロ所有のおもちゃで子どもたちに自由に遊んでもらう会で、参加した子どもたちは普段と異なる遊びができることを喜んでおり、有意義な事業であると実感している。

令和4年度は、イベント会場に子どもたちのあそび場を、という展開を行う。

【課題・ニーズ】

① あそび場が足りない

昨年度までは江別地区・大麻地区であそびの会を開催しているが、参加者は市内全域から訪れている。まだまだ、身近なあそび場になっていないと感じる。

② 子ども向けイベントの不足

新型コロナウイルス感染症の流行が落ち着いてきたとはいえ、イベントの自粛傾向は続いている。依然として、子どもが週末に楽しめる場が少ない。

③ 大人向けイベントでは子どもが楽しめない

大人向けのイベントでは子どもが楽しめる環境がなく、親子で出かけても子どもたちは暇を持て余してしまう。そのため、親も楽しめない。

【事業概要】

大人向けイベントでの子どものあそび場展開

他団体と連携し、イベントで子ども達の遊べるコーナーを設け、参加した親子誰もが楽しめる場を提供する。

① あそびの会withここからえべつ

区画整理記念会館にて、「えべつここからつながる支えあいアクション」と連携し、食品無料配布会および10円バザーと一緒にあそびの会を行う。バザーの参加者にとっては子どもたちを遊ばせている間に買い物ができ、あそびの会の参加者にとっては子供服等を安価に購入できるため、相互にメリットのある連携となる。

② あそびの会inかくやま

えべつ角山パークランドにて、株式会社ea.st(イースト)と連携し、フラワーフェスやマルシェ、ドッグラン等のイベントのコーナーの一つとしてあそびの会を開催する。大人向けのイベントに連れてこられた子どもたちを預かることで、大人はイベントに集中することが出来、子どもは飽きずに楽しめるメリットがある。パークゴルフ場なので、芝生を活用した外遊びの活動を考えている。

【新型コロナウイルス感染拡大防止の取組】

施設訪問時の事前連絡とマスク着用、検温、手指消毒を行う。施設の感染抑止策に従い、開催要否を判断する。あそびの会を開催する際も、施設の指示に合わせた対策を行う。

【収支予算】

収入は、15万3千円を計上している。内訳は、協働のまちづくり支援事業による助成金が10万円、自己負担48,000円、コーヒーの売上5,000円を見込んでいる。

支出の内訳は、おもちゃが11万円と、大きな数字になっているが、これは、ここからえべつで使用する為のおもちゃの購入費、かくやまでの外遊び用のおもちゃだけではなく、破損分の補修や更新分を含んでいるためである。保険加入費は、2千円としている。

コーヒー代は、お父さんお母さんに、おいしいコーヒーを飲んで貰いながら、ほっと一息ついて欲しい、その思いを実現するために計上しているもの。このコーヒーを楽しむ事を目的に参加されている方もおり、あそびの会の重要コンテンツのひとつとなっている。また、1人あたりコップ1杯程度だが、参加した子どもたちが飲むジュース、ハロウィンやクリスマスの時だけ配るちょっとしたおやつ代も含んでいる。

広告費は、毎月のチラシや回覧板を作成する為のトナー代を計上している。用紙は前年度の寄付があるので、予算計上はしていない。また、かくやまで使うのぼり旗を計上している。

その他は、食器の補充費用として5,000円を計上している。

支出合計は153,000円となる。

【今年度のあそびの会の開催予定】

ここから江別は、毎月最終日曜日の12:00～14:30 の予定。

かくやまは、毎月第3 土曜日11:00～15:00 の予定で、施設側の都合により、8 月より開催予定。都合により、中止・日程変更することがある。連携先が増えたら、随時対応する。

【最後に】

江別市のイベントには、いつも子どもコーナーが有り、大人が息抜きを楽しんでいる傍ら、子どもが遊べるという状況は、素敵だと思う。現在は市内のイベントのごく一部でしか実現出来ないが、そんな想いを持って活動を続けていくつもりである。

質疑応答

● 選考委員からの質問①

子どもを遊ばせるという良い内容で、他団体との連携も行っているが、スタッフが1名で、事業も拡大しており、従事者の体調管理が心配である。

【発表者の回答】

メンバーは少数で開催場所は3カ所だが、お手伝いの方もいるので、大きな負担にはなっていない。自分自身も楽しんで実行しているので、負担感も少ない。

● 選考委員からの質問②

今までの、一回当たりの参加者の人数等を知りたい。

【発表者の回答】

1回につき、概ね20-30名程度、多いと50名程。大きなイベントと連携した際は、200名程の来場があった。混雑時は対応が難しい場合もあるので、小さい規模のイベントだという周知をしていきたい。

● 選考委員からの質問③

サポートしてくれる人や連絡先の団体自体も、大人数の来場時の対応は想定しているか。

【発表者の回答】

想定している。

サポートしてくれる人の保険は、どうなっているか。

【発表者の回答】

イベント施設全体で掛けている。来場者全てが保障対象のものに加入している。

● 選考委員からの質問④

株式会社ea.stと連携することになった経緯を知りたい。参加する子どもの数も、大幅に増えるのではないか。リスクマネジメントには、どう対処する予定か。

【発表者の回答】

株式会社ea.stとの連携の経緯だが、昨年度実施していたココルクでのあそびの会の事業を知り、株式会社ea.stが、ココルクに問合せをして、当団体への紹介があった。新設のイベント会社という事で、現状、まだイベントの規模も大きくはない。しかし、来場者の増加に備え、スタッフ、サポートを多めに配置する様に動いていると聞いている。

会社から協力して貰っている事はないのか。

【発表者の回答】

それ自体は無い。今後大きなイベントになった場合には、協力要請を考えている。

2. えべつ1/1会



【事業名】 鉄道によるまちづくりプロジェクト

◆ 事業内容

江別の発展を支えてきた江別駅と鉄道の歴史等を通して、江別地区に人流を新たに作り、条丁目地区のにぎわいづくりに寄与する事を目的とする。

【会の紹介】

私たち「えべつ1/1会」は、市内の鉄道ファンを中心に結成された、10名程の会である。

日本鉄道保存協会に登録申請中で、まもなく認可が降りる予定。

江別の鉄道に関わることに幅広く取組みながら、「鉄道の歴史文化の保存」や「地域の活性化」を目指している。

【活動実績】

大きくは3つある。

1つ目は、昨年11月から始めた「えべつ」という名称の、鉄道模型走行会。初回は約80名、2回目は2日間で約400名が来場した。2回目は、想定よりも大人数が来場したため、時間制で入替え等の対策を、急遽実施した。模型走行会と銘打つと、鉄道好きの人が集まるが、会の目的は「江別の歴史文化を知る」なので、今後は周知をそちらが伝わりやすい様、アプローチを変更する予定。

2つ目は、3年程前から条丁目住民で行っていたアイスク্যানドルのイベントへの協働。今年で開業140周年を迎える江別駅を明るく照らすという意図で、「エキテラ」と銘打ち、実行委員と協働したが、スタッフ数が少なく、「ジモガク」制度を活用して学生とも協働、北海道情報大学にはデザイン等で協力して貰った。最終的には、800個のアイスク্যানドルで駅前と三角公園を彩った。

3つ目は、環境整備の一環として、地元の自治会と協働して、コロナ禍で手入れが出来ていなかった江別駅の花壇の植え替えを行った。新設になった保育園の園児の散歩などでも目に止めて貰える事があり、反響を感じる。

【新規事業】

今回の新規のプロジェクトは、鉄道を軸に、地元の商店、JR江別駅等と協力して、駅近辺のエリア全体を活性化するのが目的である。

具体的な展開としては、1.幼稚園・保育園の園児に、鉄道の絵を描いて貰い、駅構内に展示。2.情報大学学生による開催イベントとのコラボレーション(7/30、31予定) 3.地酒「瑞穂のしずく」記念ラベルの作成 4.地元カフェとの共催で、鉄道グルメの千歳川の実験テラスでの提供である。

バラバラに見える取り組みだが、アイキャッチとして、鉄道の廃線マップの意匠をあしらったトートバッグを記念品として無料配布し、参加者の廃線・鉄道等への興味喚起を促したいと考えている。

【基本方針】

細かい部分は、今までの詳細の説明と重なる部分があるが、全体としては、鉄道ファン向けの一過性のイベントではなく、江別駅近辺のエリアの人々と連携し、地域一帯の活性化を目的としている。

【収支予算】

団体としての収入は無く、自己資金で行う。

支出は、イベント参加者へ無償配布する予定のトートバッグ、イベント告知用のチラシ・ポスター、感染症対策関連物品、絵を飾る画鋏等。バッグ作成費は、ネット上の安い店舗で見積もりを出しているが、可能であれば、地域活性化の一環として、江別地区の店舗に頼みたいと考えている。

【最後に】

今回のプロジェクト通じて、条丁目のエリアでの一体感を醸し出し、人を繋げて行きたいと考えている。また、鉄道の歴史的背景を、地域遺産として価値付け、地域で継承していける様な、鉄道によるまちづくりをしていきたいと考えている。

質疑応答

● 選考委員からの質問①

協働でエリア全体を盛り上げて、色々な所と連携していくという話で、江別の地酒に鉄道のラベルを貼ってPRするという事だが、このラベルのデザインや印刷等の制作に係る費用は予算に入っているのか。

【発表者の回答】

デザインは、当会のメンバーで行うので費用は掛からない。小林酒造にも交渉して、ラベル印刷代と貼付の協力を取り付けている。

● 選考委員からの質問②

販売のサポートをするという事だが、収益からいくばくか、団体への寄付等という話は無いのか。団体の事業が継続出来る様な支援についても、今後、確保していけたら良いのではないか。

【発表者の回答】

販売元の林酒店からは、当日サポート人員の人件費程度の申し出は受けている。最終的にはどの様に取り扱うかは未定だが、会の中で協議して決定する予定。

ラベルデザインそのものについても、JR北海道の許可が必要なもので有り、売上の3%のロイヤリティ支払いが必要だが、林酒店が商品代金に上乗せして、ロイヤリティを支払うことになっている。

林酒店の店長は、元々自分の知人であり、活動に関しても、色々相談に乗っていただいている。

選考委員からのコメント

理解した。よく連携が取れていると思う。

● 選考委員からの質問③

資料を読むだけでは、鉄道140周年記念に合わせたイベントと思ったが、プレゼンを聞いてみると、条丁目エリア全体を盛り上げるプロジェクトであり、感銘を受けた。あのエリアを活性化して頂けると、大変有難い。

説明で、江別駅舎の中に、幼稚園児・保育園児の絵を掲示するとあったが、いつ頃掲示される予定か。期間は限定か。

【発表者の回答】

園児の絵の掲示については、JR 江別駅と相談の上、長めに取って貰っている。6月下旬から募集開始、7・8月と掲示を続ける予定。140周年記念は、本来11月だが、冬季は寒く、人流が少なくなる為、JR 江別駅長より、夏の時期からロングランで実施しようと提案を受けた。

選考委員からのコメント

理解した。アイスクャンドルについては、今年、自分も観に行ったが、新しい着眼点で、良いと思う。名称からは、どうしても江別駅の周年記念という面が強く感じられるが、今後も継続して、地域の活性化に尽力して欲しいと思っている。

● 選考委員からの質問④

いくつか質問があるが、まず一つ目は、トートバッグを無料で配布する予定とあるが、販売は考えていないのか。

【発表者の回答】

何故トートバッグになったかと云うと、アイキャッチという狙いもあるが、そもそも、絵を提供してくれた園児への返礼と捉えており、JRからは粗品の提供は出来ないのでは、品物を所々検討したが、クレヨン等の一過性の消耗品ではなく、長く使えるトートバッグが良いという結論になったからである。そのため、メンバーの間では、販売という話は出た事がなかった。地域の活性化を優先のあまり、検討していなかった。

【発表者の回答②】

メンバーも大学も、トートバッグの有償での販売は考えていないが、このイベントをきっかけにして、数年かけて活動の認知が高まってくると、クラウドファンディング等での協力や、企業の協賛を得やすくなると見込んでいる。参加者の方から直接お金を取る方法ではなく、まずは、エリアに人流を集める事を最優先として取組んでいる。

二つ目は、1/1会という、団体の名称の由来を聞きたい。最後のスライドにあった、江別に1/1スケールのSLを走らせようという想いを持った人々の会という事で良いか。

【発表者の回答】

これはまだ公表段階ではないが、この度日本鉄道保存協会に登録が叶い、江別に於いても鉄道が文化財として、観光資源にもなり得るとして、将来的にはシンポジウムを展開していく様な事も、会として検討している。

江別にある鉄道を、1/1のリアルサイズで復元して走らせようという想いが、メンバーの核になっている。

鉄道模型好きの人の趣味の枠の中ではなく、江別の地域の歴史を象徴するものと認識して貰う事で、観光客を呼べる資源に出来るのではないかと考えている。

それは面白いと思う。三つ目の質問だが、その説明を踏まえると、鉄道や廃線で町づくり・地域づくりを行っている成功事例や先行している地域はあるのか、自分は知らないのですが教えて欲しい。

【発表者の回答】

いくつか事例はある。イギリスやドイツでは、昔から鉄道を財産と捉えており、その様な事例がある。国内の鉄道を使ったテーマパークにも視察に行ったが、維持が大変で、中々苦戦しているのが現状の様である。ただ、江別では、国内でもトップクラスの展開が出来る可能性のある資源が有ると考えているが、展開には莫大な費用が掛かる。

今後は、それも含めて認知度を高めていきたいと考えている。

国内で、ここは参考にしたいと思う施設は無いのか。

【発表者の回答②】

小樽市の交通記念館が該当する。自分が詳しく知っているのは小樽市くらい。ただ、交通記念館は、社会教育施設として作ったので、維持に多大な費用が掛かっている。

➤ 観覧者からの質問④

絵を描いて参加して貰う子ども達は、幼稚園・小学校を考えているのか。地域の活性化に参加して貰うには、非常に良い年代だと思う。自分のボランティア活動の中で、実際に会話してみると、自分の住んでいる地域や近隣の地域の特産品や歴史などに、疎い子どもが多いと感じているので、地区でのこうした活動は歓迎したい。

また、こういった地域を盛り上げる活動は、得てして単発で終わるか、エリア限定になる傾向があるので、会の活動趣旨を、住民にしっかり周知した上で参加して貰う事が大切になってくると思う。

【発表者の回答】

補足になるが、会の活動は、条丁目エリアだけに限定して考えてはいない。

ただ、物事にはきっかけが必要で、まずは江別駅を周年記念行事で盛り上げ、また、現江別駅長が小樽駅長で地域を盛り上げた実績があって、江別地区のために協力してくれている事もあり、まずはこの団体で、小さくても成功事例を一つ作る事を目指している。

前年度での活動がある程度浸透したせいか、中学校や高校からも、学校新聞への掲載や、協働して活動したいという問合せを貰っている。こういった機会を逃さず、活動を継続していく事で、自然に江別全域に活性化の効果や繋がりが広がっていくと考える。

《選考委員の総評》



左から、新田委員(札幌学院大学人文学部人間科学科 准教授)

内海委員(江別市自治会連絡協議会 会長)

栗田委員(特定非営利活動法人エコ・モビリティ サッポロ 理事長)

○新田委員

2団体とも、熱意溢れるプレゼンテーションで、自分も励まされた。こういった活動は必要だと分かっている、1歩踏み出す、そして継続していく事がいかに大変かということ、日頃感じながら過ごしていたので、こうして一歩ずつ積み重ねている方がいるのは江別にとって財産だと思う。是非、継続的に、目的達成に向けて、頑張っていたきたいと思う。

1/1会について、私共の大学の鉄道研究会の者が参加していた様だが、そちらや、えべつあそび場創造プロジェクトとも、何か一緒に出来る事があればと思いながら聞いていた。機会があれば是非協働したい。

○内海委員

まずはえべつあそび場創造プロジェクトについて、身体が資本なので、子ども達の為に、ぜひ頑張って、基盤を築いて貰いたいと思っている。

また、1/1会は、藤本先生がいらっしゃるうちに土台作りをして欲しい。おそらく、時間の掛かる事業になるかと思うので、スタッフの皆さんも、根気よく、途中で挫折しない様に、実現に向けて頑張って頂きたい。

双方とも、応援していきたい。

○栗田委員

2団体の切実な動機や想いを聞いて、地域に根ざし、継続していく事で、何かを生み出せるのだと思う。

活動エリアが増え、関わる人が増える事で、最初の想いとは違う事も、今後出てくるかもしれない。そういう場合に、この様な支援事業に申請したり、周囲にヘルプを出したりする力も大切だと思う。軸をブレさせないという事が重要である。それが、地域や、子ども達への影響へと繋がっていく事になると思う。

双方の団体の活動を、一緒に応援したいと思う。